

2023年12月4日
シスメックス株式会社

臨床検査のトータルソリューションを支える機器生産機能を強化 ～生産子会社の工場を拡充しグローバルへの安定供給実現と検査室の生産性向上を支援～

シスメックス株式会社（本社：神戸市、代表取締役社長：浅野 薫）は、グローバルでの需要拡大に向けて機器生産機能を強化するため、臨床検査のトータルソリューションに欠かせない検体検査用の搬送システム^{*1}製品や周辺装置などの設計・生産を担うシスメックス RA 株式会社（本社：長野県塩尻市、以下「シスメックス RA」）の工場を同市内で移転・拡張することを決定しました。これにより、シスメックス RA の生産能力を現在の2倍とし、2025年4月の稼働を目指します。

近年、先進国では、医療費抑制などを背景として、臨床検査室運営のさらなる効率化が求められています。そのため、検査機器の機能向上に加えて、測定の前処理・後処理工程や、多様な検査オーダーに対応するための機器間の検体搬送を自動化・迅速化するなど、臨床検査全体のワークフロー効率化への需要も拡大傾向にあります。

シスメックスは、ヘマトロジー分野において、1990年に世界で初めて塗抹標本作製までを完全に自動化した検体搬送システムを開発・発売しました。それ以来、臨床検査室における高い生産性と安全性を実現する「オペレーショナルバリュー」の提供を目指して、製品ポートフォリオの拡充を推進してきました。シスメックス RA はグループの基幹工場の一つとして、検体検査機器の搬送システム製品をはじめとした臨床検査のトータルソリューションを支える製品の設計から生産までを一貫して担い、直近では世界初の精度管理物質自動測定を実現したシステム製品群などを手がけ、世界中のお客様の効率的な検査室運営に貢献しています。

このたび、グローバルでの中長期的な需要拡大に対応し機器生産機能を強化するため、シスメックス RA の工場を移転・拡張します。生産エリアの拡張に加え、部品・ユニットの共通化、生産ラインのフレキシブル化、ロボットを活用した自動化などによる生産効率の向上により、生産能力を約2倍に拡大するとともに、他の当社グループ工場の災害など、有事の際のBCP機能も整備します。さらに、既存工場については、新たな技術の実用化を加速するための設計ラボとして再整備し、精密機器メーカーの拠点が集積する長野県の地の利を活かしたオープンイノベーションを推進することで、様々なお客様のニーズを先取りしたオペレーショナルバリューのさらなる向上を目指します。なお新工場では、2040年のカーボンニュートラル達成に向けて、太陽光発電設備の導入など、「ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（Net Zero Energy Building : ZEB）」^{*2}の認定要件も充足させます。

シスメックスは、今後も、世界中のお客様へ安心をお届けするため、グループ一体となって取り組んでまいります。

【新工場の概要】

所在地： 長野県塩尻市
敷地面積： 14,960 m²
稼働時期： 2025年4月（予定）
投資総額： 約47億円
生産品目： 検体検査機器及び周辺装置等

【新工場の外観イメージ】



【参考】

2022年5月12日リリース『2040年カーボンニュートラル宣言 ～気候変動への取り組みを通じて持続可能な社会の実現に貢献～』

https://www.sysmex.co.jp/news/2022/220512_04.html

2022年7月1日リリース『ヘマトロジー分野 XR™シリーズ 検体搬送システム商品群を発売～世界初の精度管理物質自動測定により、検査業務のさらなる自動化・効率化に貢献～』

<https://www.sysmex.co.jp/news/2022/pdf/220701.pdf>

【注釈】

※1 搬送システム：

検査機器の組み合わせにより様々な構成、検査運用を可能とするため、検査機器同士を接続して、機器間で検体を自動搬送するためのもの。これら搬送システムや周辺装置により、従来は手作業で行っていた業務を自動化したり、必要な検査工程に応じて検体を並べ替えたりすることで、検査業務の効率化、省力化を図ることができる。

※2 ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（Net Zero Energy Building : ZEB）：

高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化（省エネ）を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより（創エネ）、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物のこと。

以上